
悪者たちのぶつくさ

imaiwa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪者たちのぶつくさ

【Nコード】

N4950E

【作者名】

imaiwa

【あらすじ】

悪者にされた魔物たちの立場になって言葉を代弁してみます。

（前書き）

また気まぐれでつまらないものを書いてしまった・・・使い古しっぽいですがお許しを

悪者たちのぶつくさ 2 もよければどうぞー！

アニメ、映画、小説、ドラマ

こういったものには、必ず悪人がいて

正義は勝つみたいなストーリーが多いんじゃないでしょうか？

例えば、勇者物語に出てくる魔王

魔王の場合

魔王　なんか俺を倒すって人間の奴等がいきりたってんぜ

部下A　そうですね

部下A　なんかストレスでもあるんですかね

魔王　俺も平和的に解決したいんだが

魔王　奴等勝手に俺の城に不法侵入してきてあげく、部下見つける
といきなり剣や魔法で襲い　　かかって来るんだよ

魔王　ひでーよ

魔王　で、俺んとこくるだろ、俺が「お前等、良くも部下を殺して
くれたな」って言ったら

魔王　うっさい！この正義の剣で！とか言っと切りかかって来るん
だよ。

俺の言う事なんかききゃーしねー・・・

魔王　しゃーないから、こちらもバトル開始だよ・・・

魔王　ちよつと反撃したらあいつら死ぬんだよな・・・

魔王　取りあえず墓つくって供養しといたよ。

魔王　そしたらまた別の勇者とかがきて襲って来るんだよ

魔王　俺も大変だよな

部下A　そうですね

部下A　同情しますわ

魔王　お前ちよつと人間たちの様子みてきてくれ

部下A　はい

部下Aはある村へ着いた。
草むらに隠れて様子を見る。

勇者 この剣さえあれば魔王を倒せる！

魔法使い そうね勇者

僧侶 うむ

村の衆 頼みます。世界の運命はあなたたちにかかっています。

勇者 じゃあ魔王の城へいこう。

勇者一向 おー！

部下A なんかいきりたってるな・・・俺たちがなにしたらってんだ・・・

部下Aは勇者の後をこっそりついていった。

魔物A 腹減ったなあ

勇者一向 魔物だ！

魔物A ガアアア（どなた？）

勇者 有無を言わず剣できりかかる

魔物A ガアガア（ちよつとまてよ、話し合おうぜ！話せば分かる）

魔法使い 氷の魔法を唱えた。

魔物A ギャアア（ひで・・・お前等化けて出るぞ・・・）

勇者一向 経験値とお金をまきあげた。

部下A ひでえ・・・おいはぎかよ・・・

部下A 城に帰って魔王に知らせないと・・・

部下Aは羽をひろげ飛んで帰る。

魔王 あいつ無事に帰ってくるかなあ・・・心配だ

部下A ただ今戻りました。

魔王 おゝ心配したぞ

魔王 どうだった？村の様子は

部下A なんといいいますか、殺るきまんまんでこっち向かっています。

魔王 困ったなあ・・・

部下A こっちに来る間にも仲間を惨殺して金まきあげていましたよ。

魔王 なんて酷い奴等だ・・・

部下A 私が思うには、低級の魔物たちは人間語が話せないから誤解を生むんじゃないでしょうか？

魔王 ふむゝそれもあるかもな・

部下A どうでしょう。一度低級魔物を教育してみては？

魔王 ふむ

魔王 部下Aよ、各地から低級魔物を召集してくれ。

部下A わかりました。

魔王城には各地の魔物が集まった。

人間偵察A むむう、魔王城に魔物が集結している・・・

決戦の日は近いのか・・・しらせねば・・・

人間偵察A 魔法を使って移動。

人間偵察A 魔王城の様子を勇者につたえねば

勇者一向は惨殺しまくって疲れたし金もいっぱいになったのである村の銀行によっていた。

人間偵察A 勇者さまゝ

勇者 どうした？

人間偵察A 魔物が城に集結しています

勇者 なんだって！

勇者 やばいなあ、もつと強くないときついな
勇者 よしもつと魔物倒して、経験値がっぱり稼いで
大勢やつつけれる魔法習得しようぜ

魔法使い んだね

僧侶 よし野に出て魔物ぶちころそう。

勇者 一向 おー！

そんな勇者の悪魔のプランを魔王たちは知らない・・

魔物たち ガアガアガアガガア

魔王 ガアガア（お前等） ガアアガア（良く聞け）

魔物たち ガアガア（へえなんでしょう？）

魔王 ガアガア（お前等に人間後を教えようと思う。）

魔物たち ガアガガ（へ？人間語ですかい？）

魔王 ガガガ（そうだ）

魔王 ガアガガガガ（お前等言葉通じなくて人間に殺されかかったことないか？）

魔物たち ガガガ（あります、あります！）

魔王 ガガガ（だろっ？）

魔王 ガガガ（だからお前等も人間語しゃべれるように教育する）

魔王 ガエガアガ（人間語できれば、言葉の行き違いが減って仲よくなれるかもしれん）

魔物たち ガガガガアガ（それはいい案だ）

魔王 ガガガ（とりあえず人間の女さらってきた）

魔王 ガガガガ（この人が今日からお前等の先生だ）

魔物たち ガガガ（先生よろしく）

女 助けてゝゝゝ

魔王 じゃあ女よろしく

女 え？え・・

魔物たち ガガガガガアア

女（助けて勇者様・・・）

部下Aはいやな胸騒ぎがした・・・

部下Aは人間たちの城にいつてみる。

人間の王様 姫がさらわれた・・・勇者をよべー
兵士 はい、

勇者が現れた。

王様 おう勇者よ、きてくれたか、とんでもないことになってな・・・

勇者 どうかされましたか？

王様 姫がさらわれた・・・

勇者 なんてひどい・・・

王様 助け出して欲しい。

勇者 もちろん！

王様 お前にこのオリハルコンの剣をやろう

勇者 おお、これさえあれば余裕です。

部下A よりによつて・・・姫さらってるし・・・

部下A 魔王つたら・・・

部下A 勇者また剣が強くなってるし、やばいって・・・

王様 急げ勇者よ、姫をたのむぞ

勇者一行 任せてください！必ずや魔王を打ち滅ぼします

勇者一行 行くぞ

部下Aは魔王城に帰ってくると、魔王と話し合った。

魔王 え？姫さらったのダメだった？

部下A そりやだめですよ、仲よくしようっていうのに・

魔王 浅はかだったか・

魔王 しかし、俺じゃあの低級魔物どもに人間語教えないしな？

魔王 我慢たりないから、教えるって柄じゃねーし、たぶん途中でキレル・

魔王 仕方ない・魔法ババアに教育は任せるよ

魔王 多少魔物たちガツカリするだろうがな・ババアだし

部下A まあその件はなんとかなるとして・

部下A とりあえず勇者がごつい剣もってこっち向かってます。

魔王 むう・

魔王 奴等話通じないからなあ・

魔王 姫を帰さないと治まりつかないし

魔王 かといって、勇者に姫かえそうとしたら、切りつけられるしな・

魔王 部下Aよ、お前わしのために、いや全魔物のために命をくれないか？

魔王 お前が人間どもと話して説得してきてほしいんだ。

部下A えええええ・

部下A やられちゃいますよ

部下A フルボッコですよ、だんな・いや、魔王様

魔王 お前ならやれる！お前は人間語もうまいし、コミュニケーション能力も高い。

魔王 とりあえず、城にバリアはって耐えれるとこまで耐えるから・

魔王 たのむぞ・お前に一族の存亡が掛かっている・

魔王は真剣な目で部下Aをみつめた・

部下A ・・・・・

部下A やれるだけやってみましょう・

魔王 うむ・・・すまないな・・・いつもお前に迷惑ばかりかけて・・・
部下A 任せてください！この部下A、命にかえましても、奴等説
得してきます。

部下A 勇者一行はもう間近まで来ています。

部下A 何とか持ちこたえてください・・・私が帰るまで・・・

部下A 死なないで・・・

魔王 うむ・・・頼んだぞ・・・

部下Aはそういうと、夕日の空へ羽ばたいていった。

魔王 さてと・・・姫にも話しておかないとな

魔王は姫が魔物たちに人間語を教えている大ホールに足を運んだ

魔王 姫よ

姫 はい？なにか？

魔王 ちょっと話があるんだが・・・

姫 ええ・・・じゃあちよつと待つてくださいね。

姫 魔物Bさんちよつと魔王さんが話しあるみたいなので

姫 悪いけど席外しますね・・・

魔物B ええ・・・オデ・・・やっど・・・人間語・・・わが・・・りはじめ
たの・・・に

姫 ごめんね・・・

姫 魔王さんとの話終わったら、また教えるから。

魔物C ガガガガ（オラにも教えてくれ）

魔物D おデ・・・にももつと・・・

魔物たちEFG ガアガア、おでにも・・・おでにも・・・

姫 もちろん！

姫 だからみんな待つててね！

魔王 むむ・・・なんて良い娘だ・・・魔物たちもあんなになついちま

って・・

魔王と姫は大ホールを去ると魔王の部屋へやってきた。

魔王は俯き加減で黙っていた。

姫 どうしたんですか？魔王さん・・

魔王 いや・・実はな・・

魔王は一部始終を姫に話した。

姫 えええ・・・・・そんなことが・・

魔王 今、部下Aが決死の覚悟でお前の父である王のもとへ説得に向かっている。

魔王 説得が成功すれば、姫、おまえを返そうと思う。

姫 ・・・・せつかく魔物さんたちと仲よくなれそうなのに・・

姫 あの子達・・すごいもの覚えいいんですよ・・

姫 それに優しいし・・

魔王 そうか・・しかし説得が失敗すれば、勇者の進行をとめることができません

魔王 いずれ、魔物たちも、そしてワシも勇者に殺されるだろうな・・

姫 そんな・・・・・

姫 そんな・・・・・ことさせないわ！

姫 魔物だって生きてるんですもの・・・・・！

部下C 魔王様、奴等がきました・・

勇者 なんだこれは？

勇者 なんか目にみえないバリアが、魔王城を覆い尽くしてるみたいだ

勇者 魔法つかい、なんとかならないか？

魔法使い うーんやってみる

魔法使いは呪文を唱えた。

魔法使い ファイアボール！！

魔法使い ……

魔法使い 無理みたいね…

僧侶 まかせろ…ワシには次元に穴をあける魔法があるのでの

勇者 よっしゃ頼むぞ僧侶

僧侶 精霊の名において（略）

バリアに人間が通れるくらいの穴が開いた。

勇者 よっしゃでかした

勇者 お前等行くぞ、ここからは敵の領域だ。油断するなよ！

魔法使い 腕がなるわ・ウヒヒヒ

僧侶 ぶちころーす

勇者一行はいつになく殺気だった様子でバリアの中へ足を踏み入れた。

目は血走っていた。

魔物偵察 A やばい…奴等キレテル…

魔物偵察 A 取りあえず魔王様に知らせなければ…

魔物偵察 A は魔王城へ飛び立った。

魔物偵察 A 魔王様奴等がバリアを破って入ってきました。

魔王 ……

姫 どうしよう…

魔王 ここまでか…

その頃

部下Aは城につくと、王に近づく機会を伺っていたが
周りの警護が厳しいため、近寄れずにいた。

部下A クソ・・・どうすれば・・・

部下A とても近づけそうにない・

部下A そうだ、人間に化けよう。

部下Aは兵隊Aに変化した。

兵隊A よし乗り込むか、急がないとな・・・

兵隊A みんなの命がかかっている・・・

兵隊長 こうくお前ちゃんと守備につけ、仕事さばんなよ

兵隊A すみません・・・

そう言うのと兵隊Aは城内へ入っていった。

兵隊A 結構いりくんである・

兵隊A しかし、良く考えるとこの姿は目立ちすぎだな・

兵隊A 蚊にでも変わるか・・・

兵隊Aは蚊に変化した。

蚊 よしこれで一気に王のいるところまでいくぞ

そういうと蚊は最上階の王の間までやってきた。

蚊 さてどう王と兵隊達とを遠ざけるかだが・・・

蚊 仕方ない

なにやら蚊は魔法唱え始めた。

王や側近、兵隊達は突然眠気がして全員ばたばたと倒れていった。

蚊 よし王を少し離れた部屋に運ぶぞ

蚊は部下Aに変化すると王様を脇に抱え

王様の自室へ運んだ。

部下A 起きるまで待つか・・

部下A いや・・時間がない・・

部下A 王様起きろ！「バチバチバチバチ」

部下Aは王様に往復ビンタをかました。

王様 うう、なんだ・・！？ヒアアア

部下A 騒ぐな、騒ぐと殺すぞ・・

部下A ちよつと話を聞いて欲しくて、お前と二人になった。

部下A おまえんとこの姫のことだが・・

王様 む・・

王様 ひ・姫がどうした？無事か・・？

部下A 無事だ・・というよりは俺達がお世話になってるというか・
・

部下Aは王様に一部始終を話した。

王様 ほお・・人間語を教えるために姫をさらったとな・？

王様 ふむ・・

部下A 魔王様はなんていうか・・おつちよこちよいというか・・

部下A でも、根は良い魔王なんだよ、人間とも仲よくしたいと思

ってる。

部下A だけど、お前等、俺達みると切りかかってくるし

部下A 話も聞いてくれないんでな・・

部下A もちろん人間語話せない奴もいるし、

部下A だから魔王様は姫をつかって奴等を教育しようと、たまに頑張ったらこんなことに・・

王様 ふむ・・あい分かった・・

王様 わしがなんとかしよう

部下A おおゝ助かるよ、とにかく時は一刻を争う

部下A 勇者一行をなんとかしてくれ・・

王様 勇者に兵を送り、やめるよう指示をしよう。

部下A たのむ・・急いでくれ・・

部下Aはそう言うつと魔王城へ帰っていった。

王様 ふむ、魔物は魔物で苦勞してるんだな、兵よ、起きろ。

兵は寝ていた。

王様 こうなればわしが・・

王様 ドラゴンよ！来たれ！

ドラゴンよ ワシを乗せて魔王城へ！

ドラゴン キーーーーーー！

部下Aが魔王城に変えると、勇者が暴れていた。

部下A なんてこった・・

魔物D おで・・おまえ・・と戦う気な・・い

勇者 黙れ魔物が、死にさせ

魔法つかい ファイアボール・・

魔物Dは息絶えた。

姫 やめてよー！勇者様！

なんてひどいことを．．

勇者 姫良くご無事で．

勇者 こいつら亡き者にした後、魔王もぶちころします

勇者 それが終わったら、一緒に帰りましょう（ニコ

姫 だから．．．そんなことしないで．．

勇者 え．．？

姫 魔物は人間と変わらないの．だからやめて！

勇者 そんなこと．．あるはずないですよ．．

姫 いいえ．．あなたは間違っています。

勇者 しかし．．王様の命令ですよ？

姫 それでもダメです。

僧侶は姫に近づくと首に手で打撃を与えた。

姫 あああ．．．

姫は気絶した。

勇者 お前．．なにを．．

僧侶 こうするしかなかった．

僧侶 たぶん姫は操られているんだ．

僧侶 一刻も早く魔王をたおしにこう

魔法 それもそうね、雑魚どもは無視して魔王のもとへ！

勇者 ．．．．．よしいくか！

部下A なんてこった．．．．．とんでも解釈しやがって．．

部下A こうなれば魔王様と共に戦うのみ．．

部下Aは魔王のいるとこまで羽ばたいた。

部下A ただ今戻りました．．

魔王 おお、帰ったか．．

魔王 どうだ？話はついたか？

部下A はい．．直に王の兵士が来ます、王の伝令を勇者に渡すために。

魔王 おおそうか．．

部下A ただ．．魔物たちは倒れ、姫が説得したにもかかわらず勇者一行は

それをまともに受け入れず、姫を気絶させてしまいました。

部下A 間もなく、こちらに勇者もくるでしょう。

魔王 そうか．．

部下A たぶん兵士の伝令は間に合わないかと思っています。

魔王 仕方ないな．．これもワシが撒いた種だ．．

部下A 魔王様、私も全力で戦います。死ぬなら一緒に．．

魔物たち ぐえええええ

魔物たち あいつら鬼だ．．

魔物たち 魔王様のところまで逃げろ！

魔王の間へゾロゾロ魔物たちがやってきた。

魔王 ．．．．

魔物たち 魔王様死ぬなら一緒に．．

魔物たち やりませ．．

魔王 お前等．．

勇者一行が魔王の間へやってきた。

勇者 魔王！決着をつけにきた！

魔王 よくきたな、勇者

部下A 魔王様は俺が守る！

魔物たち おでも・・ガガガ・・おでたちも・・

魔王 ・・・・

魔王 待て勇者！相手はワシ一人だ・・

勇者 なんだと・・？

魔王 タイマンだ！こい！！

魔法使い フン・甘いわね・・私がなんで経験値必死こいてためて、全体魔法覚えたと思ってるの！

魔法使いが口をだしてきた。

魔法使い あんた達全員一瞬で丸こげにするためよ・・ニヤリ

僧侶 そうそう・・おらあ何が楽しいってお前等ぶちころすのが一番の楽しみなんじゃ

僧侶 全員死んでもらうよ・・ヒヒヒ

勇者 おまえら・・助かる・・俺一人でやれるわけないし・・

勇者 いくぞーーーー！！！！

魔法使いは呪文を唱え始めた

僧侶も呪文を唱え始めた。

勇者はオリハルコンの剣を抜いた。

その瞬間ドラゴンの声が響き渡る

「キーーーーーーイ！」

勇者は攻撃体勢を緩める。

王様 勇者よ！まで！はやまるな！

王様 そいつらは悪くない・・・話をきけ！

勇者 王様・なぜここへ？

王様 そんなことはいいい、退け！

魔法使い フン今更やめられるかってーの

僧侶 その通りじゃ・・・

王様 くつやむおえん

王様 ドラゴンブレス！！

ドラゴンは勇者一行に炎を吐いた。

勇者一行 ぐわあああああ

僧侶 なにすつだー王様

僧侶 わかったぞー王も魔王の魔法で操られてるんだ。

王様 そんなわけあるか！

魔法使い 仕方ない、王様からなんとかするわよ！

勇者 え・・・？マジか・・・？お前等・・・

僧侶と魔法使いは目がイッテイル・・・

勇者 ちょまてって・・・

魔王 く・・・王様が危ない・・・

魔王 おまえらー！

魔物たち おうー！！

部下A うりやああ

王様 仕方ない、もう一度ドラゴンブレスだ

勇者一行を四方から敵？が襲う。

勇者一行 ええ・・・なに・・・そんなあ・・・

勇者一行はフルボッコにあい、全滅した。

王様 すまないな・・・勇者達よ・・・こうするしかなかったんだ・・・

魔王 ……

部下A 仕方がなかった・・・奴等・・・信じないんだもん・・・

姫がやってきた。

姫 ああ勇者様・・・だから違っつていったのに・・・

王様 おう姫よ、話は聞いたぞ・・・

姫 お父様・・・

魔物たち よかつ・・・った ガウガウガガ

魔王 ほろり（涙

こうして魔物たちは人間語を学び、人間達と共存共栄を目指し
世の中は平和になりましたとき・・・

(後書き)

疲れました・・・ノンストップで書き続け、途中だんだんめんどくさくなつて・・・取りあえず平和に終了・・・お疲れ様でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4950e/>

悪者たちのぶつくさ

2011年1月9日02時31分発行